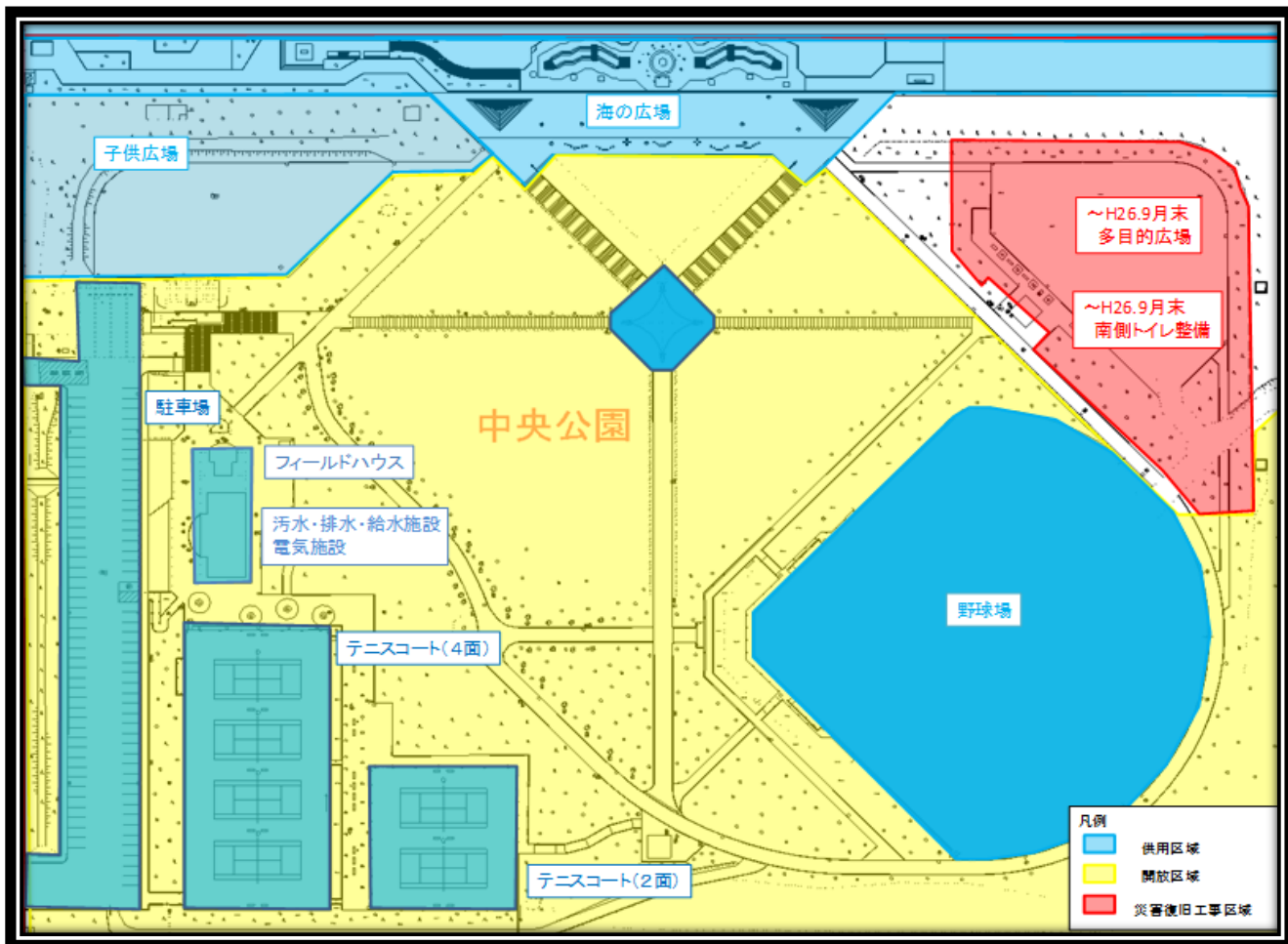




仙台塩釜港復興だより 第15号

— 港湾は人の心も結んでいます —

スリーエム仙台港パーク（仙台塩釜港仙台港区中央公園）で新たに一部供用を再開しました!



● スリーエム仙台港パークの全体図

仙台塩釜港復興だより第14号で「スリーエム仙台港パーク」のテニスコート等一部施設の供用再開をお知らせしておりましたが、平成26年8月9日（土）に新たに一部施設の供用を再開しました。

今回供用を再開した施設は、①野球場、②海の広場、③芝生緑地となります。これにより園内の一部を除き、ほぼ全面的に供用を再開することができました。なお、平成26年10月1日（水）からは、多目的広場も供用再開となり、園内全ての施設の利用が可能となります。

園内の野球施設では同日、供用再開式を開催し、少年野球チームによる始球式が行われました。公園内の運動施設を大いに活用していただき、技術力等の向上に貢献することができれば幸いです。

今回の供用再開によって、県民の皆様には港をより身近に感じ、憩いの場として利用することが可能となりました。展望台からは広く開かれた仙台港が一望でき、園内の散歩コースは気持ちよい港の風を感じることができます。

現在、野球施設・テニスコートの利用にあたっては、公園の指定管理者である（株）東北ダイケンが事前予約を受け付けております。詳しいご利用方法等について、ホームページ（<http://tohoku-daiken.p2.weblife.me/chuuou/>）も開設しておりますので、ご覧下さい。皆様のご利用をお待ちしております。



● 多くの人で賑わうテニスコート



● 新たに供用が再開された野球場



● 仙台港が一望できる展望台



● 地元少年野球団との供用再開式の様子

今年度も仙台塩釜港には多くの客船が寄港しました！

仙台塩釜港仙台港区では、9月に入り、日本三大クルーズ船として有名な『にっぽん丸』、『飛鳥II』、『ぱしふいっくびーなす』が入港しました。これらの大型客船の接岸には－6.5m～7.8mの水深が必要となりますが、仙台港区の中野ふ頭岸壁は水深が確保され、安全に接岸できる岸壁となっております。

乗客の皆さんは中野ふ頭着岸後、仙台市内や松島などを観光し、宮城県が震災から立ち直り、復旧・復興に向け邁進する様子が伝わったことと思います。

また、仙台塩釜港から日本各地に向うため多くの方々に乗船されました。乗客の方々には海上の楽園と呼ばれるクルーズ船での旅を堪能してもらいたいと思います。



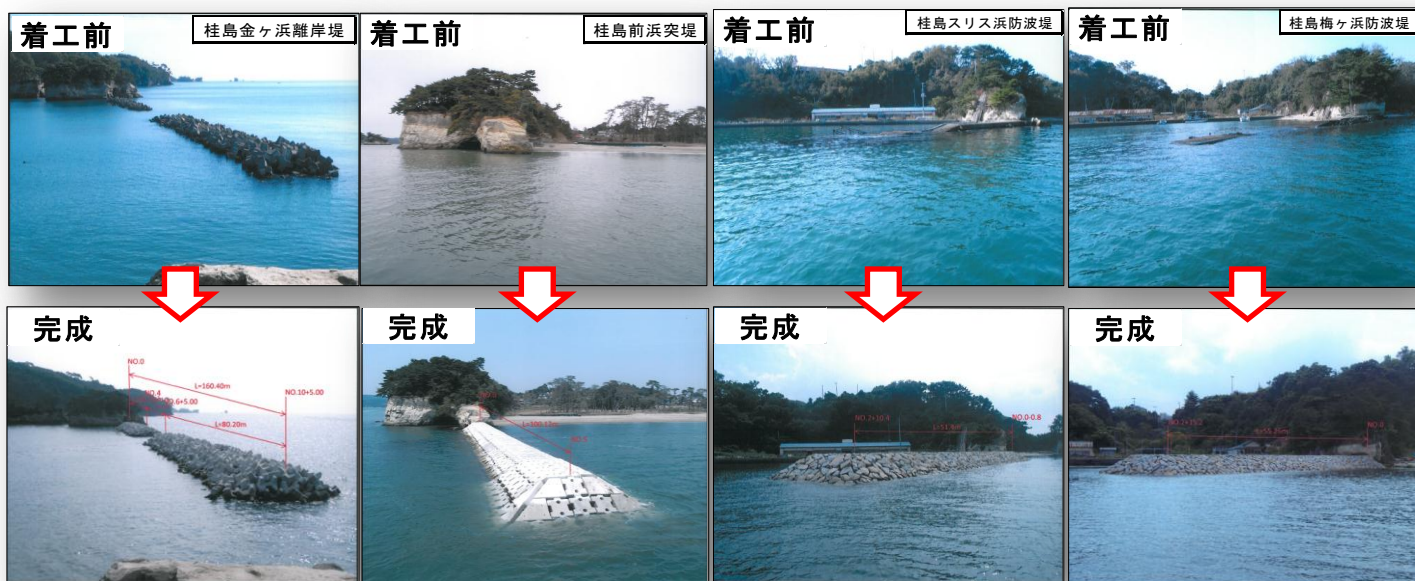
● 仙台塩釜港に寄港した『飛鳥II』

桂島の外郭施設（離岸堤・突堤・防波堤）の災害復旧が完了しました！



震災により被災（流失・沈下等）した桂島の「外郭施設」のうち、4施設（桂島金ヶ浜離岸堤、桂島前浜突堤、桂島スリス浜防波堤、桂島梅ヶ浜防波堤）の災害復旧工事が完了しました。

「外郭施設」とは、港内の静穏度を確保したり、港湾施設や背後地を波浪や高潮などから守るための施設で、普段は近づくことができないためあまり身近な施設ではありませんが、港湾利用のための重要な役割を持っています。

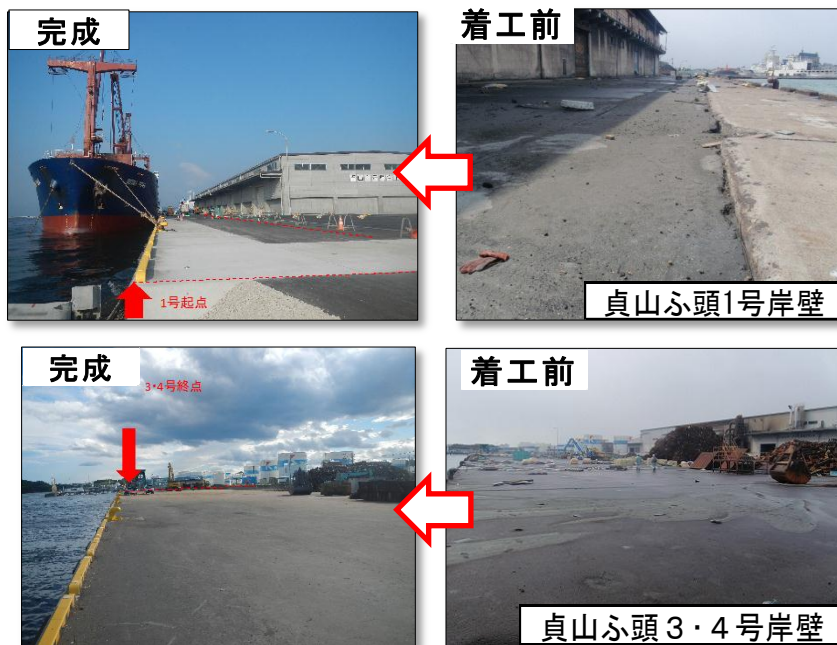


塩釜港区（貞山ふ頭1号岸壁，3・4号栈橋）の災害復旧工事が完了しました！

貞山ふ頭1号岸壁及び貞山ふ頭3・4号栈橋災害復旧工事について、平成24年度に着手し、部分供用をしながら進めていた工事がようやく全面完了しました。

“貞山ふ頭”の岸壁については災害復旧完了しましたが、塩釜港区全体から見れば、一部の施設でしかありません。

残りの施設についても、早期復旧を目指して引き続き鋭意進行中ですので、関係する皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。



仙台塩釜港で働く応援職員のみなさん

前号から掲載をスタートしました仙台塩釜港で働く応援職員の方々の紹介も本号で第二回となります。今回は、東京都からの応援職員「佐藤 良輔さん」と鳥取県からの応援職員「森山 禎樹さん」です。

「佐藤 良輔さん」(東京都応援職員)

7月1日より東京都から仙台塩釜港湾事務所に派遣されました佐藤と申します。

宮城県に派遣されてからは、仙台港先端の高砂船溜りの復旧工事や七ヶ浜町の護岸や防潮堤の工事及び設計などの業務を行っています。長く長く続く防潮堤や護岸など被災の大きさを目の当たりにしながら日々業務にあたっています。

数ヶ月間宮城県で仕事をしてみて感じたのは、これだけの大きな被害を受け、ほとんどノウハウがない中で復興業務を行わなければならない、ということの大変さです。誰も経験したことがない業務をやるというのは本当に高いエネルギーが必要なのだと実感しました。また、実際に仕事してみると、通常の業務と同じ枠組みの中で仕事をしていかなければならないにも関わらず、作業量だけは膨大、ということが多々あります。もちろん多少の緩和はありますが、これも苦勞する点であると思いました。

宮城県の方々に対しても、被災後から長期間にわたり復興に尽力し続けている事に敬服しております。



● 部分供用を開始した高砂船溜り

「森山 禎樹さん」(鳥取県応援職員)

今年の4月から、1年間の予定で派遣されてきました鳥取県の森山です。主に港湾の災害復旧工事を担当しますので、よろしくお願いします。

こちらに赴任してきて前半年が経とうとしていますが、この半年間、実際に災害復旧の現場を目の当たりにしてきて、一番強く感じるのは、道路に比べると港湾の災害復旧はあまり進んでいないなということです。

あらゆる人々が日常的に利用する道路の復旧が優先されるのは当然のことなのですが、人々の暮らしを支えるという意味で、港湾施設や漁港施設も重要な役割を担っており、一日も早く震災前の状態に戻していかなければなりません。

また、再び津波の被害を受けたとしても、ビクともしない、安全で安心できる生活環境を一日も早く実現していかなければなりません。

港湾の災害復旧は、まだまだこれからが本番という状況ですが、仙台塩釜港湾事務所の方々や建設会社の方々と手を携え、少しでもお役に立てるように、残りの半年間も頑張りたいと思います。



● 中ふ頭前面護岸の災害復旧工事

編集事務局

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001 仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132 FAX 022-254-3136 E-mail sdsgkowns@pref.miyagi.jp